

幼年期の教育プログラムに関する一研究

— 表現活動を中心として —

片 岡 靈 恵

まえがき

こどもを理解する為の諸方法のうち、もっとも初歩的であり、しかも効果の大きい方法として、観察法—Observation—があげられよう。保育科学生は、保育実習の最初の段階として、先づ、見学及び観察実習を課せられる。

2時間内至3時間、じっと坐って、活動するこども達を見ていることは、若い人達にとって退屈な時間と感じられることが多い。勿論、最初は、目にうつるこども達の姿や動きが、もの珍らしいが、回を重ねるに従って、同じように見えて来たり、または、見ているだけではつまらないから、一緒にあそびたくなったり、何かを教えてやりたいとの衝動にかられる傾向が往々見受けられる。

しかし、私たちの観察眼は、経験の蓄積によって生長するのである。同じこどもを見た場合でも、一週間前の見方と、今日の見方には、違いが出来る筈であるし、また、こども達という観察対象自体が、刻々変化しつつあるのである。その変化を捉えることだけでも、観察の意味は大きい。そればかりでなく、観察によって得たこどもへの理解は、よい教育プログラムを創るための参考資料となり、現場で実践される。そして、その結果はふたたび観察により評価され、次のプログラムに適用される。

此のように、観察法は、教育の全過程にわたって、終始、つづけられる方法である。こどもを指導する技術も、方法も、また、教育内容の選択も、刻々変化成長している児童の実態の把握なしには考がえられないからである。

本レポートは、筆者自身の数年前の観察実験の記録資料を用い、それに若干の新しい考察を加えたものである。教職に志ざす学生諸姉の、今後の現場研究への一つのヒントを、お与え出来れば幸いである。

I 課題について

1. 幼年期のこども

註(1)

此の時期のこども達の特性の一つとして顕著なことは、新らしい刺激、未知の世界への好奇心、探求心である。彼等にとって、見るもの聞くもの、殆んどすべての事象が、珍らしく、興味と関心の対象となる、彼等は、そのような新らしい経験に、進んで、直接ぶつかって行く。自分の手で、試してみ、その事物が何であるか、どんなものかを知り、更にそれを自分のものにしようと努力する。そして、自分の力で、それをなしとげること成功した時、大きなよろこびと充実感を得るのである。

比のような行動を動機づける要因は、本能的な性質のものだけではないという見方が、近年とられる傾向がある。これは人間だけでなく、動物実験においても観察される場所である。即ち、鼠や猿、猫、犬などの行動の動機も、食物を得るため、危害から逃れる為ばかりではなく、新らしい環境を探索する好奇心や興味に原因することもあるという。

Robert White は、このような動機をおこさせる要因を、Competence と名づけている。

註(2)

2. 教育プログラム

以上のような幼年期のこども達の特質を中心に、教育プログラムを追求するとき、私達は通則として、こども側と教師側の両面から、問題解決へのアプローチを試みる。幼ないこども達の場合には、こども側の問題研究が強調される傾向がつよいが、本研究は、教育者及び教育内容、教育方法の面を重点的にするものである。

教育者の役割は、被教育者（こども）の欲求を満し、安定感を与え、進むべき方向を指し示してやるだけだろうか。こども自身が新しい経験に挑戦する意欲をたかめ、その新しい経験を自分のものにする能力を獲得することが出来るように助けてやることではないだろうか？その為に、教育者は、こどもが、学習という仕事を、satisfing（満足感のあふれた）exciting（すごい、すばらしくおもしろい）enjoyable（たのしい、ゆかいな）こととして体験するために、教育プログラムを考がえ、与えなければならないのである。

3. 表現 (Expression) 活動

未分化な、こどもの生活を区分することは、むつかしいが、本課題の研究にあたって、表現活動という一つの生活領域に焦点を絞ることにする。

Expression（表現）とは、自己の内臓するもの、また、外から受容したものを、自発的に、外部にあらわし示すことを意味する。自分のもっているもの、感じている気持、考がえていること等を、自分以外の人々に伝えたい与えたいという希求、また、その表現の意志を活動行動として実現する能力の伸長に、Competence という動機要因が、密接な関係をもつことが予想される。

表現活動の媒体となるものには、言語、音楽、運動、造形素材、社会的行動等、いろいろ考がえられるが、このように表面にあらわれた活動様態を手がかりとしつつ、よりよき教育プログラムを創造してゆくのが、教育者の仕事である。

以上を要約すれば、本研究の課題は、「こどもが、真実に求めているものを、教師は、与えているだろうか？」との素朴な問いであると云えよう。

II 研究手続

1. 対象グループの集会時間、(毎週土曜日2時間)の観察を、一名内至二名のリーダーが担当記録し、終了後、リーダー全員が、観察者の報告を中心に討議する。討議によって、次の三点を明瞭にする。
 - a. その日に見られた問題行動をあげ、その内から、表現—Expression—に關聯する件をえらぶ。
 - b. 問題解決への手がかりを発見する。
 - c. b を具体化するプログラムを考がえだす。
2. 次回セッションのプランをつくり、準備する。
3. プランを実施する。
4. 結果を評価し、修正プログラム、または、新しいプログラムを、デザインする。(1.にもどることを意味する。)

III 研究対象

実験は下記のような、特殊グループで行なった。このグループは学生の研究、実習、実験の為に、開設されている、非公式なこども会のような集団である。こども達は、年齢以外は何の制約も義務もないから、プログラムに興味をもたなければ、次から来なくなってしまう。また、大都市の慣習として、週末を郊外に出かける家族の多いことから、天気がよい日は、出席数が激減するという現象があることも附記しておく。

1. 名称 Work and Play School
2. 集合日時 毎週土曜日午前 9.30—11.30 (1961年10月より62年5月末まで) 註(3)
3. 場所 米国ニューヨーク市グリニッチヴィレッジ、聖ヨハネ教会ホール。
4. 人数 登録者29名
出席平均数15名

5. 児童年令 (男児14名, 女児15名)

3才児 3名 6才児 2名

4 " " 4名 7 " " 5名

5 " " 11名 8 " " 4名

6. 指導者4名(キリスト教教育専攻修士課程在学学生) 註(4)

指導教授 1名 註(5)

" 助手 1名

○学生リーダー4名は、毎週のセッションの準備, 指導, 観察, 評価を, 協力して行なう。4名が, 順々に役割を分担するが常にチームとしてのまとまりをもたなければならない。

○指導教授とその助手は, 事前に何の指針も示唆も与えず, 実施がすんだあとの評価の時間に, 徹底的に, 観察結果の分析, 検討を指導する。



7. 児童の実態

	問題行動 (1-14)	解決への手がかかり (a-j)	予想計画 (I-XII)
言	<p>1 年少児に、幼児語の残存が認められる。</p> <p>2 年長児に、スラングや、よくない言葉づかいが、しばしば聞かれる。</p> <p>3 相互の会話を楽しむことが出来ない。(リーダーとの間、子どもとも)</p> <p>4 年長児に、一日中発語しない者が二名位ある。(ひとりだけではない。)</p> <p>5 絵本や読物の本に興味をもつ子どもが少ない。</p>	<p>a. 好ましくない言葉づかいが聞かれるのは、大人との対人関係がくいかない時、友だち同志のうまあそびが、発展しない時である。(リーダーとも、友だちとも、より親しいではないか?)</p> <p>b. 文字や印刷物に関心をもち、自然な姿の、映像時代の子どもを自然にするには、努力を要する。</p>	<p>I (1.a.) 年少児に、大人が、よりやさしく接触し、世話をよめる。</p> <p>II (2.a.) 年長児には、大人を助ける仕事を与え、充実感を味わわせる。</p> <p>III (3.4.) I, II, を個別的に指導してから相互の交わりにみちびく。</p> <p>IV (5.b.) 本も与えつつけるが、同時に、映画、スライドも用いる。</p>
運動	<p>6 衝動的に、何の目的もなく、室内を走りまわることが多い。</p> <p>7 庭に出たがる子どもが多い。</p> <p>8 リズム活動や、ゲームに興味を示さない。殊に、年長児は、リズムゲームがはじまると、すつと、グループから脱け出してしまう。</p>	<p>c. 言葉で表現出来ない感情を、走りまわるという行動であらわしている。</p> <p>d. 子どもたちの活動性を伸ばしてやるプログラムとスペースの不足。</p> <p>e. リズム活動やゲームが、年少児向きで、年長児には、幼稚だったのではないか。</p>	<p>V (6.7.c.d.) 一度、リーダーの監督つきで、庭を見せる。そして、此の庭は、子どもが遊ぶのに適しないことを理解させる。</p> <p>VI (6.7.c.d.) 街の広場、小学校庭へ連れて行き、あそびさせる。</p> <p>VII (8.e.) 少し高度なリズムダンス。</p>

音 楽	<p>9 レコード音楽に興味をもたない。 10 歌うことに関心を示さない。 11 新しい楽器には、一寸興味をもち、ためしてみることが、長づきしない。</p>	<p>f. 興味を示さない子どもにも音楽は、入ってゆく。 g. リーダー自身、歌うこととを楽しんでいないか？ h. ただ新しい楽器を与えればよいのではなく、どんな楽器がよいか考がえる必要がある。</p>	<p>VIII (9.f) 子どもたちが、好きなものがあるかどうか聞いてみる。 IX (10.g.) 音楽からはじめると、歌って声楽をしていくことや、誰でも知っている歌を大人も、誰でも知っている歌を大人(11.h.) 本物の楽器を使用させてみる。</p>
造 型	<p>12 新しい素材が与えられ、それを徹底的にマスターしてみようとはしない。 13 何でも、完成をいそぎ、つくる過程を楽しむことも少ない。 14 獨創性がありすぎる。</p>	<p>i. 他の領域と比較すれば、興味をもつ子どもが多い。 j. 造型(殊に粘土、指絵)活動によって、表現への欲求を満し、その能力を伸長し他の領域にも及ぶようになれる。</p>	<p>XI (12.i.) 使いた素材を与え、その新しい使用方を、こども達に見せせる。 XII (13) 造型の時間を充分にとり、大人も一緒に作り、過程を楽しむ。 XIII (14.j.) こどもの造型活動の結果でなく態度を評価の対象とする。(出来ない場合が他の人の真似でない場合を賞讃する。)</p>

VI 実験計画と目標

1. 楽器あそび。（音を出す物体をいろいろ集め、楽器も出来る丈多く用意して、こども達に、音を出す面白さを知らせ、合奏をして、皆で音を調和させる試ろみをさせる。）

準備したもの、楽器（ピアノ、ギター、ウクレレ、フルート）打楽器（太鼓、シンバル、鈴、タンブリン、カスタネット、トライアングル）音を出す物（ガラスコップ、空缶、ボール箱、積木、貝殻、瓶、スプーン、箸、紙、小石、木ノ実）

- 目標
- (1) 音にいろいろあることを知る。
 - (2) リズム打ちをして楽しむ。
 - (3) 身体を、リズムカルに動かすことを楽しむ。
 - (4) 大勢で、鳴らすと、迫力がある音になることを発見させる。

2. 玩具やごっこ。（部屋にある玩具をつかって店をつくり、全員が一つのお遊びをする機会をもつ）

準備、玩具類は全部、持合せのもの、テーブルを、コの字型に並べ、中を、店員の場所に定め、Toy Store の看板や、ポスターをつくって、こども達が、入ってきたら、すぐ見えるように配置する。お金や財布をつくる人がある場合を考がえて、紙、鋏、鉛筆の準備。他のコーナー（ままごと、絵本、製作など）は全部やめて、玩具やの中に吸収する。

- 目標
- (1) こども達同志が、言葉で交流するきっかけをつくる。
 - (2) 見馴れた玩具に、新しい用途を見出す。
 - (3) 役割分担、ごっこ遊びのルールを学ぶ。

3. ファインガーペインティング、（度々やって好まれている素材を、新しい使用法で実験する。）

準備—従来の方法との相違点は次の三点である。

- (1) 準備を、年長児に手伝わせ責任を持たせる。

(2) 無色のペイントと数色の粉絵具をあたえ、各自が紙の上で、色を混ぜて、つくり出す。

(3) BGMに、胡桃割人形（チャイコフスキー）のレコードを流し、手、腕の動きにリズム感を与える。

目標 (1) 4色の基本色を混合すると多くの色が出来てくることを発見する。

(2) 年長児に責任感と自信を与える。

(3) BGMによる動きのリズムを、フィンガーペイントの感触と結合してたのしむ。

4. 写真撮影（こども達も、自分または、知人の写真を楽しんで見るし、年長児には玩具でない本物のカメラの操作も出来るかもしれないとの想定から、計画した。）

準備、室内は暗いので、庭に出る日にカメラを用意することとする。年長児の中で、一番困り者の男児ロバートとポールにカメラを使わせてみることに決定。）

目標 (1) グループ全員が、一つの活動を、短時間でも集中してする機会を与える。

(2) 皆一緒という親しみと連帯感を味わう。

(3) 友だちやリーダーの名前と顔の確認をする。

(4) カメラを操作する子は、その為の集中力と、科学性とを養わない、自信をもつようにする。

V 実験観察記録と評価

1. 楽器あそび。4月28日

○観察対象児

ロバート（男） 7才3カ月 R.
Robert

パム (女) 7才11カ月 P.
Pam

ダイナ (女) 5才2カ月 D.
Dana

メイス (女) 5才1カ月 M.
Mace

○リーダー名 アリス Alice A.

今日は、全体を年長児、年少児の二グループに分け、年長児は二階ホール、年少児は階下で遊び、十時半よりのお八つで一緒になり、つづいて、コンサートあそびをする予定。(実験計画と目標1.参照)

○観察記録

9時30分、R.一番に入って来て、すぐ、机上の楽器類を発見、全部一度づつ鳴らしてみたが、それ以上、興味を示さない。そこで、部屋を見まわす。

D. P.が来る。リーダーは、二人をテーブルの方へ誘い、「ここにあるもので音楽をしていいのよ」と云う。年上のPは先づ、水の入ったコップを、スプーンで二三度叩いてみただけで、去る。Dは、Pのすることを見ていただけ。Pに従って行く。

R が階下へ行ってしまったので、Aは呼び戻しに降りて行く。

9時40分P. 部屋中を駆けめぐり、「私何かやりたいわ」と叫ぶ。リーダーA「OK, R君とPちゃん、こっちへいらっしやい、皆で何かおもしろいことしよう。」

P 「私、みてるだけにするわ」

A 「あなたが来ないと出来ないの」

P 「あ、下の部屋で誰かさわいでいる」

R 「男の子は下で、女の子は上だ」「ポールはどこへ行ったんだろ？」
といいながら、また、階下へ降りて行ってしまふ。

A (コップを鳴らし乍ら)「何が聞こえますか？」

P (答えずに)「聖ルカ小学校の教室には、ちゃんと、書いてあるよ。」

A 「一生懸命きかなければならないのは何か知ってる？」

P 「メロディーよ。」ここで、リーダーAは、あきれてしまって、会話を中止する。次に、D.M.に向ってはなしかける。

A 「これから、耳できくゲームをしましょうね。Dちゃん、私のいった通りにするのよ。さあ、立って、二回まわって、坐ってごらん。」Dは、早速云われた通りにやる。しかし、二度まわるところを一度省略してしまった。

A 「よく聞いてませんでしたね」Aは悲しそうだった。努力が認められず、はげましもなかったから。

A 「私が何と行ったか云える人？」

M 「私、出来ない」

A 「今度は、私たちが、ここにいるお友だちの名前知っているかどうかみましょうか」

D 「あの子の名前は Pam よ」

P 「No, 私の名前はエリザベス」こういいながら、Pはスキップして行ってしまふ。Dは再び、失敗。

A 「ことばあそびをしましょう」Bのつくことば、Oではじまることば等をさがす遊びをはじめ。P「あんなあそび、私幼稚園でやったわ。私は、詩をつくりたいの」といい乍ら、机上のコップの水を、のみ干す。

M 「私ものどがかわいちゃった」

D 「私も」と二人でPの真似をする。

A レコード（つまさきとびのリズム）をかける。D, M, よろこんで、つまさき歩きを試みる。）

P 「あら、あんなの赤ちゃん向きよ」

10時14分

A 「机の上にあるもの皆みたでしょ、どれか一つとって、レコードききながら、ズムに合わせてみましょう」

P 「そんなのリズムぢやないわ」といったが、タンバリンをとると、身体全体で、リズムカルに、ならして、皆に加わった。

D 肩だけをうごかしている。

M はPの真似をしようとする。(後略)

○評価

(1) 年長のPにとって、玩具類は興味なく、ピアノとギター位。彼女の母はピアノをひくし、小学校は、私立のよい学校なので、相当高度の音楽教育を受けている。それに比較すると、D、M、は、眼をかがやかせて、新しい楽器類をためしたかったのに、Pが、ひっかきまわした為に、出来なかったと見られる。リーダーは、D、M、にもう少し注意を向けるべきであった。Rは、唯一人の男児だったので、そのことに気をとられたようだ。殊に、さわぎ仲間のポールとはなされたことで、落ちつかない時間をすごしていた。

2, 玩具やごっこ 5月4日, (12名), 9時35分 Nancy (8才)最初に来校, リーダーKに迎えられる。Nは長いこと休んだ理由をKに話した後, 店の主人役をしているリーダーYに紹介してもらう。店先をみまわした後, 油粘土の一箱をえらび, 隅の机に行って, 粘土であそびはじめる。(それから三十分位, もう一人の仲よしの女兒M (8才)と粘土あそびをつづけた。何をつくろうか?と云っている時, リーダーTが「お菓子をつくって, 店に並べたら?」とすすめたが同意せず, とうとうワシントン広場とかいうのを, つくり上げた。)

N, の次に Paul とDana が来校。Dは, 縫ぐるみの兎を持参, ずっと抱いている。Dは, 店から, ままごと道具を買い, 家ごっこをはじめる。あとで, P, ともう一人の男の子が, 一緒に入れてくれと云ったが, その後, お家ごっこは発展せず, Dは, ずっと, 本をみて, 自由活動の時間をすごす。

Robert は新しい友達をつれて来る。リーダーが, 皆に紹介するようにと云うと, 彼は, 次のように, Mike を紹介した。「僕の友だち Mike

です。彼は第57公立小学校3年生。僕のパパのガソリンスタンドにも来ます。」そして二人共、玩具やに招かれた、M、椅子にかけて、金槌と釘をいじる。R、とP、は、紙で丸い貨幣を切り抜く。R、は、すぐあきて、部屋中をかけまわりはじめる。

Bobby と David (4才) 母親に連れられて来る。母親たちがすぐ、看板を見つけて、「みてごらん、玩具屋さんよ。」といい、Dはパズルを、Bはなわとびを買う。(後略)

○評価

第一に、お店ごっこで、あそんだ子が一人もなかった点。最初一寸興味をもつが、自分のほしいものを買ってしまうと、それであそびはじめて、店には再び来ない。リーダーが、一人一人に熱心に誘いかけたのに、誰も応えなかったのは、何故か？理由の第一は、お店ごっこを計画したのは、こども達でなく大人だったことである。また、その準備を全部大人がやっけてしまい、こども達の活動の余地は殆んどなかったということである。創造的な活動を好む、このこども達にとって、お店ごっこは、全然、興味の対象とはなり得なかったのである。

粘土を買って行って、ずっと、粘土づくりをつづけたN、とM、また、ままごとをはじめたD、P、売り買いよりも、貨幣づくりという建設的な仕事に興味をもったP、たちの行動が、私たちに語っている言葉は何であろうか？「わたしたちのしたいのは、もっと違ったことです」という声ではないだろうか？

4才のB、D、にとっては、お店ごっこは、買うことの興味だけに止まったので、お店ごっこをしたのは、結局、大人たちだけだったのである。

3. Finger Painfing. 5月4日、(12名)いつものやり方と違い、こども達は、先づ自分のすきな場所をえらんで坐ることになった。床の上で画く希望者が多く、力のつよい動作の早い年長児たちが、先に、床の上の場所を占領してしまい、年少児たちは、テーブルの上という結果になった。全

員がエプロンをかけ、新聞紙の上に、ケント紙をひろげて用意が出来た時、リーダーは、Robert と Mike に水をふくませたスポンジを渡し、「今日は、二人の大きい男の子にヘルパーになってもらいます」というと、二人は、眼をかがやかせ、早速、皆のところをまわって、紙を濡らして行く。

Paul (7才) が、出て来て、「僕にもやらせて」と頼むので、リーダーは「勿論、あなたにも、大きなお仕事がありますよ」と、彼には、絵具皿を運ぶ仕事を与える。三人の男児は、はり切って、責任を果たす。

はじめに与えたのは無色の糊状ペイントだったので、こども達は口々に、「色のついたのがほしい」と叫ぶ、しかし、Paul が、粉絵具の皿をくばり、リーダーが、説明すると、やがて、皆は、新らしい作業にとりくんで行った。四色の粉絵具を一度に全部まぜてしまう子、二色づつまぜる子、区別して単色のまま使う子など、いろいろのやり方が試みられ20分程、たのしむ、色をつくる面白さに、今日の興味は集中して、リズムカルな線のうごきが見られず、BGMの胡桃割人形の曲にも、全然反応が見られなかった。

今まで、一度も手のよごれる仕事（粘土や Finger Painting）をやったことのなかった David (4才) が今日始めて、指先だけだが、新らしい経験をした。

○評価

こども達、特に年長の男児3名に、大きな責任を与えたことによって彼等のよろこびを増すと同時に、年少者たちにも安定感を与えた。（この三人が、よくあばれて、グループのまとまりをこわしたり、小さい子ども達をおびやかす）馴れた材料を新らしい方法で使うことによって、こどもたちの興味をさそった。レコードは、この場合、よくばりすぎ、三つの目標を一度にというのでなく、一つ一つじっくりと、きわめて行けばよいとの反省がなされた。しかし、音楽をBGMとして使う場合には、目に見えた形で、その影響があらわれるよりも、むしろ、雰囲気をつくる役割を果たせばよいと考がえることが出来る。こども達が、色をつくる仕事に興奮して熱中している時でも、音楽は、こども達の身体に、しらずしらずの内に浸

みとおって行っているかも知れない。部屋中に、たのしい、盛り上ったムードをつくるのに、胡桃割人形の花のワルツが、何等かの働らきをしたことは、明らかである。

4. 写真撮影（その一）4月28日、

一同庭に出て、グループ写真をうつす予定だったが、時間がなく中止。Robert と Mace の二人が、迎えを待つ間、二人を、庭につれて行く。Robert は、アッと思う間に走り出して、庭のまわりを駆けまわったので牧師館の神父さんにおこられて戻って来る。Mace は、おとなしく花壇のチューリップを見ていたので、二人を並べて、一枚うつす。その後、R、は、私に、「僕にもさせて」といったので、シャッターを教えて試させる。R、はは Mace と私に向って、ここに座れとか、こういうポーズでとか注文をつけて、シャッターを切った。あまり、丁寧にしなかったようだが、三枚ほどうつさせる。結果は、中々よく出来た。

（その二）5月4日

R、に見せる為、4月28日にうつしたフィルムを急いで、プリントして持ってゆく、R、に、写真を見せたが、そんなに、うれしそうな様子も見せなかった。しかし、後で、皆一緒に、写真をとることになった時、彼は、経験者として、他のこども達に指示を与えたり助けを与えたりする役をよろこんで引きうけた。この日は、Robert, Paul 及び、二人の女の子（8才）の四名が、カメラをつかう機会をもった。

○評価 こわしてはいけない道具、新しい器具を使うとき、こどもでも相当の緊張感をもつし、集中をしなければならない。Robert は、どちらかといえば落つきのない、乱暴なこどもである。その彼が、一瞬、ちっと集中して、新しい経験に挑んだことは、とりもなおさず、彼の Competence に応えたことである。

この特殊な庭では、しづかな遊びしか出来ないという制限された状況の

中で、この新しい経験が、こども達にアッピールしたことは、大変うれしかった。



IV 総合評価及び結論的考察

以上四回の実験結果を総合的に評価するために、先づ、成功したプログラムと失敗したプログラムに分けてみよう。比較的に良結果が多かった3, **Finger Painting** と 4, 写真撮影の計画は何故よかったのだろうか。3, においては、与えられた素材は使い馴れた **Finger Paint** であったが、思いがけぬ新しい使用法が紹介されたことによって、色を創り出すという新しい経験に導びかれたことが一つの大きな理由。次には、年長児のあり余る精力を、大人の手伝いという責任ある仕事に向けさせたことである。此の経験活動においてこども達は、それぞれの発達段階に応じた形で、十分に、自分を表現する機会をもち、自由で気楽な雰囲気の中で、個々の力を伸ばすことが出来たのである。また、4, 写真撮影においても、年長児は年上としての自覚と自信をもつ機会を与えられ、年少児は、グル

ープへの所属感を高めることが出来た。

これに反して、余りよい結果をもたらさなかった1, 楽器あそび, 2, お店ごっこの失敗の原因は、次のように考がえられるであろう。即ち、楽器あそびの為には、相当に多くの新らしい材料が準備されたのにも拘らず年長児にとっては、玩具的なものであったとの誤算である。

また、お店ごっこのアイデアは、こども達の生活から生れたのではなくて、大人リーダー達の発想だったことが原因すると考がえられる。それまで、此のグループの子ども達のあそびは、独り遊びか、大人の指導による遊びが多く、自分たちでグループをつくってする遊びの経験が殆んどなかったのである。(此のような原因に加えて、リーダーシップの貧困も、大きな影響を及ぼしているのであるが、ここでは触れない。)

こうして、実験観察の記録を分析整理評価をすれば、やがて、次のような結論的な考察に導びかれると思う。

即ち、幼年期のこども達の成長を助ける教育プログラムは、第一に、こどもの実態の正確な把握と理解を基盤とし、ついで、教師の創造的な努力によって生み出されるものである。

教師は、常に、こどもが今どこにいるのか、を注意深く見つめ、何を訴えているのかを、よく聴かなければならない。その為に、大きな精力を使うことは、一見無駄のように見えて、実は違うのであって、見て聴いている内に、こどもが真に求めているものは、何か?が少しづつ分って来る。

そこで、教師は、次の段階に進み、具体的に何を教育プログラムに組んだらよいかを、考がえなければならぬ。その際、こどもの能力の今の状態を知り、そのレベルよりも、少し上の新らしい経験や、教材を与えてみるという試みが多く成功する。(写真ごっこなど) また、従来の教育プログラムとしては、全く型やぶりの教材が創作され試みられてもよい。しかし、殆んどの場合にみられる限界のある可能性の中では、既知の材料の新らしい使用法(フィンガーペイントの例のように)が、良結果を生むことが証明されたのは、興味深い。

以上のような教育プログラムは、とりもなおさず、こどもの真の要求—Competence を充足させたと云うことが出来よう。こども達ひとりひとりが、自由な、そして独自の応え方をもって、新らしい経験（教育者が周到に考がえ準備して与えたところの）をうけ入れ、それを探求することに、満足し、興奮し、そして楽しさを見出している姿が、この真理を語っているのである。

註(1) 幼児期は、就学前のこども、即ち満6才未満を意味するが、近年、小学校三年生（満8才）頃までの子どもを含めて、幼年期とよぶことがある。本実験グループのこどもの年齢が3才から8才までであり、比較的、年長児群を主な対象としたので、此のよび方を用いた。

註(2) 適当な日本語訳が未だないので、英語のまま用いられている。

註(3) 米国の学校は五日制で、土曜は休日であるから、こども達を集めることが出来る。

註(4) 米国聖公会DCE（キリスト教教育主任）養成センターである Windham House 学生。

註(5) ユニオン神学校キリスト教々育学教授。（教育学博士）

参考文献

- Almy, Millie, “Ways of studying Children,”
Bureau of Publications, Teachers College,
Columbia University, New York, 1959
- White, Robert W, “Motivation Reconsidered:
The Concept of Competence”, Psychological
Review, Vol.66, No.5, 1959.
- Miel, Alice (ed.) “Creativity in Teaching,”
Wadsworth Publishing Company, Inc. 1961.